

腹端部は目の粗いままのこざれていて、殆んど穴があいた状態になつている。前蛹になる時に脱糞するが、糞はこの穴から押し出され、職アリによつて取除かれる（繭がこのような構造になつているのは、トゲアリ以外にはまだ見たことがない）。ただし始めに出来た7個の繭のうち、2個は糞が繭の穴の所でひつかかつてとまり、繭の後端に付着したまま残つた。

幼虫の脱糞を観察したのは1回だけであるが、その状態を示すと、

8-VIII-'62, 10.31 p. m. 3個目に出来た繭で脱糞が始まり、糞が繭の後端から突出している。幼虫は、腹端を繭の後端に押しつけて、糞を繭外に押し出している。クロオオアリの職アリがその糞をなめる。10.34 p. m. 糞が1 mm 位の長さへ突き出る。職アリが押し出された糞を、大顎でくわえ取つて表面をなめ、巢室の隅へ捨てる。繭後端の穴は、脱糞後更に大きく開かれて、明瞭に認められるようになる。(以上)

幼虫は、1匹づつ日をおいて営繭していたので、営繭から羽化までの各期間を知ることが出来た。静止期間は、第3表の通りである。幼虫は営繭を開始してから、半日から1日の間に営繭を終り、静止してから1日か2日で前蛹となつた。前蛹期間は4日、蛹期間は16日から18日であつた。

羽 化

最初の羽化日は、24-VIII-'62であつた。8.10 p. m. に観察した時は、すでに羽化の脱皮を終り、クロオオアリの職アリが2,3匹集つて、トゲアリの職アリの体表をなめており、1匹のクロオオアリの職アリが、脱皮殻をなめていた。殻は後に巢室の隅へ捨てられた。

2匹目のトゲアリの職アリが羽化した27-VIII-'62には、羽化の様子を始めから見る事が出来た。

27-VIII-'62, 1.05 p. m. クロオオアリの職アリとトゲアリの職アリが、羽化するトゲアリの繭の中の蛹の前胸部辺のところを咬み破り始める。1.21 p. m. 蛹が繭から引き出される。蛹は肢、触角を折り曲げて体にくっつけている。1.29 p. m. 脱皮殻が腹部から肢のつけ根にからまる。1.30 p. m. 脱皮殻は肢にからまり、若虫は肢を後方にのばす(写真3)。1.52 p. m. 肢にからまつていた脱皮殻は、クロオオアリの職アリによつて取り去られる。1.53 p. m. 若虫、床に立つ。

以上、1時間足らずで脱皮を完了した。この間、クロオオアリの職アリ2~4匹と、8月24日羽化のトゲアリの職アリが集つて若虫の体表をなめ、或は脱皮殻をくわえて引くというような世話ともいえる行動を続けていた。

羽化直後のトゲアリの職アリの体色は、頭部、触角灰褐色、胸部淡褐色、前胸棘、中胸棘、腹柄棘の先端部黒褐色、肢及び腹部黒褐色である。黒い部分は羽化後1日経つと殆んど色づくが、胸部の赤褐色は完全に着色するまでやや日数を要する。

羽化後のトゲアリの職アリの行動

トゲアリとクロオオアリとの反吐は、羽化した日にすでに見ることが出来た。両種の間には争いはおこらなかつた。最初の3匹だけ、胸部の色の違いや、わずかの体の大きさの違い